

第4学年〇組 道徳学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 相手の心を大切にして 中学年2-(2) 思いやり・親切
資料名 「温かいことば」 (学習研究社)

2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、困っている友達や元気のない友達を見かけると、声をかけたり心配して教師に伝えたり親切にしようとする気持ちをもっている。また、親切にして喜ばれたり認められたりすることに喜びを感じている様子も伺える。しかし、気付いていても声をかけられなかったり、相手の気持ちを十分に考えていない親切で、受け入れられずに不満な表情を浮かべたりする姿も見られる。これは、相手が何を求めているかよりも「してあげる」というように自分の思いが強く、その場の状況や相手の真の気持ちを察しようとする意識が薄いためだと考えられる。

そこで、他の人との関わりにおいて相手の気持ちを理解できるようになるこの時期に、本主題を取り上げ、相手のことを思いやり、親切にしようとする心情を育てることは意義深いと考える。

- 本主題は、「相手の気持ちを尊重して行動する」ことを主なねらいとしている。相手の気持ちを尊重するとは、相手の立場や状況、心境を察し、気持ちを理解することであり、ただ同情する、やさしく接するなど、自分本意のものではない。相手の置かれた状況を察して、相手が何を求めているかを考え、共感して接していくことが本当の親切であり、その経験を通じて温かい人間関係を築いていくことができる。しかし、実生活では、自分本意の親切であったり、相手が広い心で受容できなかったりするために親切がかえって迷惑やおせっかいになってしまうこともある。

そこで、相手の気持ちを尊重して行動することの大切さに気付き、温かい人間関係を築いていこうという態度を育てることは大変意義深いと考える。

- 本資料は、親切な行為を断られても優しく受け止めるお兄さんと、お兄さんの気持ちを感じて「ありがとう」と答える男の子の様子を見ていた主人公の「ぼく」が、本当の思いやりの心について考えさせられるという話である。相手の気持ちを尊重して行動することの大切さに気付かせることのできる資料である。

本時指導にあたっては、「ぼく」の気持ちに視点をあて、お兄さんと男の子の言動を見ている「ぼく」の思いやりに対する考えの変化に共感させながら、思いやりの心をとらえさせていきたい。導入では、思いやりの心とはどのようなものか話し合わせ、本時のめあて「思いやりの心について考えよう。」へとつなぐ。展開1では、二人の言動を見ている「ぼく」の気持ちについて、役割演技を取り入れながら考えさせていく。その際、お兄さんの立場になり、お兄さんがどのような気持ちから謝ったのかも考えさせ、本当の思いやりについて気付くことができるようにする。展開2では、思いやりのある態度で接したり、接してもらったりした経験を想起させ、話し合うことによって、自分の今までの友達や他人への接し方を振り返り価値を内面的に自覚できるようにする。終末では、教師や友達の経験や様子を紹介してねらいとする価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

相手の気持ちを尊重して行動することの大切さに気付き、温かい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第4学年〇教室において

- 5 準備 資料「温かいことば」、板書用挿絵、道徳ノート、言葉のカード、音響BGM

6 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 「思いやりの心」について話し合い、思いやりのある心について考えていくことを知る。</p> <p style="text-align: center;">めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">思いやりの心について考えよう。</p> </div>	<p>○ 事前に記入した心のノートを活用し、思いやりの心について話し合いやすいようにする。</p>
展 開 1	<p>2 資料「温かい言葉」を読み、「ぼく」の気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>※前半を読む。</p> <p>(1) 階段の隅を一人で上がっている男の子を見ている「ぼく」の気持ちについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大変そうだな。助けてあげたいな。 ○ 何て声をかけようかな。はずかしい。 ○ だれも手伝わないのかな。 <p>(2) 男の子が「やめろ」と言ったのを聞いたときの「ぼく」の気持ちについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ せっかく声をかけたのにひどい。 ○ あんな言い方をしなくてもいいのに。 <p>※後半を読む。</p> <p>(3) お兄さんと男の子の会話を聞いて、「ぼく」はどんなことを考えたか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ごめんよ。ぼうや、がんばれ。」「ありがとう、おにいちゃん。」と言葉をかわす二人の様子を見て、「ぼく」はどんなことを考えたでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ぼくだったら言い返していたかもしれないのにお兄さんはやさしいな。 ○ 気持ちが通じ合ったみたいだな。 ○ 本当の思いやりとは相手の気持ちを大切にしていることなんだな。 ○ ぼくもお兄さんのように相手の気持ちを考えて行動できる人になりたいな。 	<p>○ 登場人物や場面の把握をしやすいうように言葉のカードや挿絵を提示していく。</p> <p>○ 男の子の様子（ギプス・重そうな足・玉のようなあせなど）をしっかりとおさえ、手をかしてあげたいと思うが、なかなか行動に移せずにいる「ぼく」の気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○ お兄さんの気持ちを想像させ、男の子の言葉に腹立たしさを感じる「ぼく」の気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○ 役割演技をして考えさせた後、道徳ノートに書き、話し合う。</p> <p>○ 役割演技の際、「ごめんよ。」に続く言葉を付け加えるようにし、お兄さんがどのような気持ちから謝ったのかも考えさせ、男の子の気持ちを大事にするお兄さんの思いやりに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「ありがとう」という言葉についても触れ、男の子もお兄さんのやさしさに気付いたことをとらえられるようにする。</p> <p>○ 価値に迫らせるように、机間指導を行い、意図的指名をする。 (やさしさ→心の通じ合い→本当の思いやり)</p>
展 開 2	<p>3 自分の生活を振り返り、思いやりの心をもって接したことや接してもらったことを書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1人でバケツを運んでいる友達がいるととても重たそうだったので「手伝おうか。」と声をかけて手伝った。 	<p>○ 資料のように、本当に相手のことを思いやって接することができたことについて想起させるようにする。</p> <p>○ クラスや学校で取り組んでいる「かがやき見つけ」や「ありがとうの花束」のことに触れ、経験を想起しやすいようにする。</p>
終 末	<p>4 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師や友だちのエピソード 	<p>○ 相手の気持ちを感じ取る力が思いやりの心を育て、行動化することで相手も自分も喜びを感じ、よりよい人間関係を築いていこうとする意識の継続を図る。</p>

めあて
思いやりの心について考えよう。

温かいことば

男の子
七・八才くらい
重そうな足
玉のようなあせ
足にギブス

階段を一人で上がる男の子を見て・
大変そうだな。助けてあげたいな。
何て声をかけようかな。はずかしい。
だれも手伝わないのかな。

二人の会話を聞いて・
ぼうや、たいへんだね。
おにいちゃん、手伝ってあげようか。
やめろ！ぼくはひとりでのぼれるぞ！

ごめんよ。
ぼうや、がんばれ。
ごめんね。
一人ががんばりたかったのに、よけいなことを言っただけ。
ごめんね。

ふたりがかわした温かいことばは、ぼくのむねのおくまでしみこみ、ぼくの心を動かしました。

自分の生活をふりかえって

せつかく声をかけたのにひどい。
あんな言い方しなくても、お兄さんがかわいそう。

ぼくなら言い返すかも。やさしいな二人の気持ちを通じ合ってみたみたいだ。本当の思いやりとは相手の気持ちを考えて行動することなんだな。ぼくもお兄さんみたいに相手の気持ちを考えて行動できる人になりたい。







8 道徳ノート

道徳ノート 四年組 番号 名前「
めあて
思いやりの心について考えよう。」

温かいことば

一「ごめんよ。ぼうや、がんばれ。」「ありがとう、おにいちゃん。」と言葉をかわす二人の様子を見て、ぼくはどんなことを考えたでしょう。

二 思いやりの心をもつてせつしたり、せつしてもらったりしたことはありませんか。そのとき、あなたはどんな気持ちでしたか。

